

平成21年度 「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	遊休施設の有効活用デザインによるコミュニティの活性化事業
対象地域	島根県隠岐郡海士町
対象地域の概要	  【島根県隠岐諸島の1つの島】 【海士町（中ノ島）】   【活用されていない民具館の外観】 【放置されたままの民具の数々】
提案内容の概要	高齢化により、昔から風土と地域の人々によって育まれてきた貴重な暮らしの知恵や技が失われつつある。そうした背景の下で、現在活用がなされていない民具館を利用し、<u>聞き書きを通してお年寄りの持つ力を引き出しながら伝統文化の継承に挑み、そこで得られる地域資源を教育や交流の場に活かす。</u>
提案する活動の内容 (1) 地域の課題	まず、人口の約4割を占める高齢者の力を地域内で活かす場がほとんどない。昨年度選定された事業で実施した地域資源調査を踏まえ、地域の最大の魅力は、まさにお年寄りの知恵や技にあると確信した。しかしながら、その土地に寄り添って脈々と受け継がれてきたそうした財産が見える化されておらず、地域の魅力を二地域居住者やU I ターン者の増加、後継者育成につなげられていない。 次に、お年寄り自身が自分たちの暮らしへ自信や誇りを持っていないということがある。自然資源を季節に応じて活用して生きることの素晴らしさを、お年寄りの言葉で主体的に伝えてもらわなければ、地域での暮らしの魅力は本質的には伝わらないため、そのための工夫が必要となる。 また、現在活用されていない民具館には、300点以上の昔の道具が放置された状態になっている。現在のままでは集められた道具が活かされない上、道具と共にあった手仕事の文化が喪失されることになる。だが、未だなお文化資源を保全する方法が見出されていない。
(2) 活動内容の案	活動①：「暮らしびと」から地域の食や、海・山・田畑しごとなどのお話を聞き書きし、記録する。 内容： 地域で日々季節に応じた食材を料理・保存したり、海・山・田畑しごとにとずさわったりと、その土地に寄り添った生き方をする人のことを「暮らしびと」と定義し、話を聞き書きして記録をする。島外からアドバイザーを招いてイベント的に行う聞き書きと、日常で集落を歩きながら行う聞き書きの両方を通じてデータを収集する。内容については、暮らしびとの知恵や技について教わるが、一人一人の生き方やそれを支える思想についても焦点をあて、風土に生かされた人の暮らしを学んでゆく。

	活動②：聞き書きした内容を小冊子やパネルにまとめ、見える形にする。 内容： 地域の魅力を伝えるため、聞き書きによって得られた内容を冊子やパネルの制作に活用する。原稿の編集と印刷・製本に取り組み、島内外の人たち向けの小冊子とパネルを作る。パネルについては、民具館に設置することで、交流の際に誰もが暮らしびとの知恵や技に触れることのできる環境を作る。 活動③：島内外からの訪問者が、民具館で“暮らしびと”に出会う交流をコーディネートする。 内容： 島外から交流事業や研修で地域を訪れる人たちの多くは、地元住民との交流を望む傾向にある。そうした中、聞き書きを通してリストアップされた暮らしびとに、民具館で話を伺って道具の使い方を教わったり、時にはその後共に集落へ足を運んで交流を深める。また、島内の人々についても、例えば学校でふるさと教育を行う際に児童・生徒たちが地域の伝統文化を知ることのできる機会を創出する。
応募団体名	株式会社 巡の環
リンク	http://www.megurinowa.jp/
部局／担当者名	高野 清華
連絡先	info@megurinowa.jp
推薦市町村名	島根県隠岐郡海士町